

(別紙様式)

都道府県番号	14
都道府県名	神奈川県

(    )

該当する観点にチェックをすること

・ 学校名及び規模

川崎市立東門前小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15	21	
児童数	51	46	55	51	47	59	3	312		

・ 実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

<p>・ 主題(テーマ) 「主体的な活動を支える学力の育成」 ～一人一人の確かな学力を培う指導と評価～</p> <p>・ テーマの設定の趣旨 平成11.12年度川崎市教育委員会「特色ある学校づくり」推進校の研究において、本校のめざす子ども像を「人とのかわりの中で主体的に活動できる子」として、研究を進めてきた。 本年度の学力向上の研究においてもめざす子ども像を「主体的な活動ができる子」とし、「主体的な活動を支える学力の育成」を主題とし、それを実現するために、「一人一人の確かな学力を培う指導と評価」の研究を進めることとした。</p>
---

・ 実践研究の内容について

( ) 研究体制の工夫

**研究テーマ**

「主体的な活動を支える学力の育成」

～一人一人の確かな学力を培う指導と評価～

研究テーマを設定するに当たって、学力のとらえを行うと同時に、本校のこれまでの研究の経過を大切にしたい。

学力については、「知識・技能だけでなく、思考力や学ぶ意欲を含めた3つの資質や能力をとらえた。そして、これらの資質や能力が相互に補完しながら学力が育成される。」と考えている。

3つの資質、能力については、

知識・技能

・各教科の学習指導要領の知識、技能に関する内容

思考力・判断力・表現力

- ・各教科の学習指導要領の思考・判断、表現に関する内容
  - ・創造力 ・想像力 ・学び方 ・情報活用力
  - ・コミュニケーション能力 ・プレゼンテーション能力
- 学ぶ意欲
- ・関心 ・知的探究心 ・実践力

ととらえている。

確かな学力については、「知識・技能だけではなく、思考、判断し、自分の生き方をよりよくしていこうと将来にわたって働く力」ととらえることにした。

## ( ) 実践研究の内容

授業においては、評価計画を立て、子どもの実態を把握し、個々の子どもに対応した学習過程を創造する。

- ・学習効果が上がるような指導計画を立てるために評価規準を作成する。
  - ・学習時間内の子どもの反応を的確にとらえ、評価に対するてだてを用意する。(形成的評価)
  - ・子どもの実態をとらえるとともに、教材研究を行い、より効果的な教材を開発する。(教科書の指導内容を工夫するなど)
  - ・その単元、教材の学習内容、ねらいにあい、効果の上がる指導方法、指導体制を工夫する。(T・T、学習状況別グループ学習、学年内教科担任制 など)
- 自己評価力を育て、自ら学び、自ら考える力を育てる。

- ・各学年にあった自己評価方法を工夫する。

子どもの実態を把握し、必要と考えられる基礎的・基本的な学習の時間を確保する。

- ・学期ごとに「もんぜんタイム(基礎・基本習熟の時間)」の計画を立てる。

かわわりを大切にし、主体的に活動する場を設けることで、子どもの主体的な活動や創造的な活動の力を育てる。

- ・ゆうゆうタイムやひがもん会議など、子どもの主体的な活動の場を設ける。

## ( ) 成果と課題

### 成果

- ・研究の重点として考えた「評価計画を立て、子どもの実態を把握し、個々の子どもに対応した学習過程を創造する」一連の試みは、一人一人の学習意欲を高めることにつながり、ひいてはより大きな学習成果を生むことにつながったと考えている。
- ・この研究を通して、私たち教職員が、より深く教材研究を行うとともに、一人一人の子どもの実態を把握しようと努力する姿勢が身につけてきたことも大きな成果といえるであろう。
- ・少人数授業を実践し、学習する人数を減らすことで学習効果が上がることはわかってきたが、さらに学習状況別グループを組むなどして、児童の学習状況にあった学習展開を創造することで、より大きな成果が期待できると考えられる。
- ・12月に3, 4, 5年生に行った学習意識調査で、「算数が好き」と答えた子どもが、6割にのぼった。また、「学習したことをわかっている」と答えた子どもは、

7割にのぼった。他の教科と比べても大変高い値を占めている。このことは、本校の指導と評価の研究の成果ではないかと考えている。

### 課題

- ・ 今後は、さらにその単元、教材ごとに、児童の学習状況にあったより効果的な学習過程の創造に力を入れていかなければならないと考えている。
- ・ 「自己評価力を育てる」ことについては、低・中・高学年部会で、それぞれ学年の各段階に応じた評価について考えてきた。その中でも特に、次の学習への励みや意欲につなげていくこと、その学習の内容やねらいについて自ら振り返ることができるような自己評価の在り方を考えてきた。  
しかし、より効果的な自己評価の方法については、まだまだ研究途上にあり、今後さらに研究を深めていく必要を感じている。
- ・ 「かわりを大切にし、主体的な活動をする力を育てる」ことについては、教育課程全般はもちろん、授業の中でもいつも意識して取り組んできた。特に、中学年ではコミュニケーション能力の育成に重点を置いて取り組んできた。人と人との望ましいかわりの中で、安心して自分を出せる環境が生まれ、主体的な活動ができる力も育ってくるという考えのもと、さらにかわりを大切にする視点で、教育課程全般を見直すと同時に、個々の単元、授業における学習過程の中でもかわりを大切にしていきたいと考えている。  
また、児童活動においても主体的な活動を行える場を確保するために、「ひがもん会議」の充実などに力を入れていきたいと考えている。
- ・ 本校で12月に行った学習意識調査で、多くの子どもたちは学習に対して、「もっとできるようになりたい。」「新しいことを知るのが好きだ。」「問題が解けたり、新しいことがわかったりするとうれしい。」と考えていることがわかった。子どもたちは自分をよりよく向上したいと思っている。私たち教職員は、この切実な願いに答えるべく、さらに個々の子どもの思いや願いを大切にしたい学校づくりを目指して行きたいと考えている。

### ( ) 成果の普及方策

#### 公開研究会

- ・ 日時 平成15年1月22日(水)
- ・ 場所 川崎市立東門前小学校 川崎市川崎区東門前3-4-6
- ・ 研究テーマ 「主体的な活動を支える学力の育成」  
～一人一人の確かな学力を培う指導と評価～
- ・ 対象 オープン 169名参加(県外35名、川崎市外9名、川崎市内125名)

#### HP

- ・ 本校のホームページにおいて研究公開のページを設け、本年度の研究授業や研修の内容について公開を予定している。

(<http://home.keins.city.kawasaki.jp/2/KE200301>)